一般講演

1 ベトナムのイエバエ科ハエ類 (2) 篠永哲 (東医歯大・医動物) Muscid flies of Viet Nam (Diptera, Muscidae) (2) Satoshi SHINONAGA
 演者は、本年度の大会においてベトナムのイエバエ科ハエ類のうち、イエバエ亜科 (イエバエ族とサシバエ族) について報告した。今回は、トゲアシエバエ亜科のハエについて報告する。本亜科のハエはベトナムからは1種も記録されていない。ここでは *Helina* 属 (5 種)、*Phaonia* 属 (6 種)、*Brontaea* 属 (2 種)、*Dichaetomyia* 属 (15 種、5 新種を含む)、*Atherigona* 属 (9 種、7 新種を含む) について報告する。

3 インドネシアから採集されたセンチニクバエのコロニーの生理的特性
 森林敦子・林 利彦・主藤千枝子・倉橋 弘 (国立感染症研究所・昆虫医科学部)
 Physiological property of one colony of the flesh fly, *Boettcherisca peregrina* obtained from Indonesia
 Moribayashi A., Hayashi T., Shudo C. & Kurahashi H.

アジア各地から得たセンチニクバエの生理的特性を検討しているが、今回インドネシアのほぼ赤道直下のスラウェシ島より得たセンチニクバエの特性を、環境の影響、特に日長や温度から検討した。採集した地点は南緯 0.6 度で日長は薄明薄暮を含めてもほぼ 13 L : 11 D である。一年中日長の変化が殆ど無いと予測出来る環境から採集したニクバエの生理的特性を短日条件、低温 (14L:10D, 20 °C) で休眠に入る東京のセンチニクバエとの比較検討が休眠生理の特性を研究するに当たり重要である。休眠性、囲蛹化時間、羽化、卵の発育状態、温度に対する感受性、前胸腺からのエクジソン合成能力等を脳との関連で、また異なる日長条件の長日と短日で調べた。さらに異なる温度下での羽化状況等を検討した。その結果インドネシアからのこの系統は短日条件により良く適応していることが明らかになった。

2 北部ベトナム産のインドセンチニクバエに見られる
 蛹休眠性の地域変異
 ○倉橋 弘, 森林敦子, 林 利彦, 主藤千枝子 (感染研・昆虫医科学), Ta Huy Thinh (ベトナム生態・生物資源研・昆虫生態)
 Local variation of diapause incidence found in *Boettcherisca nathani* colonies from the northern Vietnam.
 Hiromu Kurahashi, Atsuko Moribayashi, Toshihiko Hayashi, Chieko Shudo and Ta Huy Thinh

北緯20度から22度にかけての亜熱帯に位置するベトナム北部地方産のインドセンチニクバエ *Boettcherisca nathani* Lopes の3系統について20°Cにおける蛹休眠性を誘導する光周反応を調べた。その結果、蛹休眠率と休眠誘導のための臨界日長に地域による変異が認められた。休眠率は Tam Dao 産90%, Cuc Phuong 産77%, Truong Yen 産45%, 臨界日長はそれぞれ12h00, 11h30min, 10h50min であった。この3地点はハノイから100km圏内にあり緯度的にはあまり変わらないが、標高は Tam Dao が1000mと最も高く、Truong Yen 900m, Cuc Phuong 170mと順に低くなる。Truong Yen 産では同じ系統内の休眠蛹の休眠深度にもばらつきが認められ、低温処理することなしに20°Cに放置して羽化させたところ50日と70日付近に羽化の山が観察された。これらの結果は亜熱帯ではほぼ同じ緯度にある地域でも地域の系統間でわずかな環境の違いを反映して微妙に変化していることを暗示しているようである。温帯地域にまで分布を拡大しているセンチニクバエにその発達が見られる真性蛹休眠の起源を考える上で重要であることがわかった。

4 千葉県における春期のブユ採集成績
 斎藤一三 (横浜市大・医・寄生虫)・佐藤英毅 (川崎市研)・金山彰宏 (横浜市衛生研究所)
 Fauna of the blackflies in Chiba Prefecture in spring
 Katsumi Saito, Hideki Sato and Akihiro Kanayama

我々は日本のブユ相について調査を進めている。今回は千葉県において調査を行った成績について報告する。

調査期間は1998年3月14-15, 21-23日および4月26日の6日間である。期間中、66地点で調査を行い、36地点から既知種1属10種と1未同定種を含む2,931個体が採集された。そのうち、*Simulium yonagoense* と *S. sp. H* の2種は本県からの新記録種である。

最も多く採集された種は *S. uchidai* の1,262個体で全採集数の43.1%を占めた。次いで、*S. bidentatum* の864個体 (29.5%)、*S. japonicum* の504個体 (17.2%) の順でこれら上位3種で全採集数の89.7%を占めた。以下、*S. quinquestriatum* の188個体 (6.4%)、*S. arakawae* の72個体 (2.5%) の順である。

最も多くの地点から採集された種は、*S. uchidai* で32地点から採集された。これはブユが採集された地点の88.9%にあたる。次いで、*S. japonicum* の14地点 (38.9%)、*S. bidentatum* の12地点 (33.3%) の順であった。